

2025

フクシマ連帯キャラバン

2025 フクシマキャラバン報告書

福島原発事故から14年が経ち福島の人間としてまず感じる事が、風化してきているということです。このことは全国から来た仲間も同意見で、福島はもう復興しているものだと思っていたという声が多かったです。テレビやメディアではいかにも復興しているように見せていることが最大の影響だと思います。14年経つと事故当時残っている建物も少なくなってきたのが現状です。福島の人間として今後どう伝えていくかが大事になると感じました。

今後、大事になっていくのはキャラバンに参加した人が震災の悲惨さや原発事故の悲惨、原発事故は終わっていない、復興はしていないことを地元に戻ったときに仕事の仲間や家族、友人に伝えていくことが大事だと思いますし、原発事故を知らない子供たちに伝えていくことも必要だと思います。

今回、フクシマ連帯キャラバンの団長を務め、不安もありましたがキャラバン隊の仲間達が支えてくれたので団長という大役を最後までやり遂げることができました。来年のキャラバンも東北が中心となり、全国の仲間にも原発事故の恐ろしさを再認識してもらい反原発という声を上げていきたいと思いました。

全港湾東北地方小名浜支部
松村 海斗





フクシマ連帯キャラバン参加報告書

昨年に引き続きフクシマ連帯キャラバンに全日程通して参加しました。今回は前回とは違い、完全に経験者としていろんな参加者の人、開催している東北地方の方達の手助けをすること。2年連続で参加しているのでも前回とは違った視点で様々なことを経験し、地元の後輩たちにどうやって自分の経験、キャラバン活動とは何なのかを伝えるのか。この2点を自分の目標としてキャラバンに臨みました。

そんな思いの中、キャラバン隊の副団長に任命されることとなり、頼りないながらも自分の職務を全うできてきたと思っています。ですが、それ以上にキャラバン隊の仲間に支えら

れた場面の方が多く、全国の仲間の暖かさ、そしてつながりの深さと大切さを感じる4日間となりました。今回学んだこと、交流した仲間の思い出、そのすべてが私の人生の財産であり、自分の後輩やまだ見ぬ全国の仲間と共有していくべき物だと思っています。今後の様々な活動に今回の経験を活かし、全港湾青年部の輪をもっと広げていけるよう努力していきます。

最後になりますが、今回のキャラバンを運営して頂いた全港湾東北地方の方、中央執行部の方にお礼を申し上げて私のキャラバン報告を終わります。

全港湾名古屋支部青年部書記長 羽賀 達也

